

第6回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見①

新規感染者の増加傾向が続いています。高止まり状態であり、お盆期間の人の流れを考慮すると楽観的要素は少ないです。

PCR検査の陽性率も約22%です。客観的にみると検査件数が十分ではなく、診断されない状態の方が多数いることを想定しなければいけません。

重症者数は増加しており、コロナ病院の逼迫状態を裏づけるデータです。

変異株の分析ではデルタ株が83%に達し、ほぼ置き換わっているといってもよいでしょう。

ワクチン接種は確実に進んでいます。高齢者については84%が2回接種を完了しています。しかし、全世代では29%にとどまっており、懸念材料です。

主要な繁華街での人流が減少しています。新型コロナウイルス感染症患者の減少傾向に転じることを期待したいと思います。

現在は、第5波といわれています。これまでの対策で有効であったのは、緊急事態宣言で人の流れを抑制することです。感染対策の基本でもあります。

このまま感染症患者が増加すれば、医療体制は崩壊します。このような危機的状況を回避するためにもご理解とご協力を強く要請します。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②－1

現状の評価と今後の見通し

- 他の関東圏の地域と同様に、千葉県内での感染者数の増加は続いている。
- 新規感染者動向のグラフでは、感染者増加のペースが弱まっているように見えるが、無症状の濃厚接触者に対するPCR検査が実施できていないことが、影響している可能性がある。
- PCR陽性率が20%以上という非常に高い値になっていることは、実際の感染者数は更に多いことを示唆している。
- 高流量式鼻カニューラ酸素療法と人工呼吸器管理中の入院患者数を合わせた数は、重症患者用の入院病床数を大きく上回っており、重症者を受け入れる病床は満床を超えた状態と考えられる。
- 自宅待機患者が激増しており、自宅からの救急要請が増えているが、入院先が見つからずに救急車が長時間立ち往生するような事態が頻繁に発生しており、自宅での死亡事例も増えてきている。
- 妊婦の感染者が増えており、周産期の医療体制に大きな負荷が生じている。
- 人流が減少してきている徴候はあるが、お盆の影響もあるため、正確な評価は難しい。

※重症病床以外の病床においても高流量式鼻カニューラ酸素療法を行っています。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②－2

必要な対策

- 救急搬送困難事例や在宅での死亡事例を公表し、一般住民に対して災害状況であることを伝え、感染者を減らすための更なる協力を依頼する。
- お盆休み明けの人流を減らして、感染拡大をピークアウトさせる。
- 若い世代のワクチン接種をできる限り推進し、流行拡大を抑制する。
- 妊娠中の方及びその同居家族にできるだけ早くワクチン接種を提供し、妊婦と胎児を守り、周産期医療の負担を少しでも軽減させる。
- 酸素投与が不要で退院可能な場合には、療養解除期間前でも速やかに自宅療養に切り替え、利用可能な病床を入院優先度の高い患者のために使用する。県民に、非常事態下における優先順位をつけた入院調整、早期退院の方針を理解してもらう。
- 在宅酸素導入の体制整備、入院待機酸素ステーションの設置をできるだけ早く行い、救急車が長時間、立ち往生する事態を防ぐ。
- 重症化リスクの高いホテル療養者に、抗体カクテル療法を実施する体制を早急に整備する。